

農薬豆知識【雑草のお話】

水田雑草について その2

今年の除草剤の効きはどうでしたでしょうか？
昨年、ご協力頂いた除草剤のアンケートでは、問題になっている雑草の問いに対して、シズイ、コウキヤガラとの回答が見受けられました。このため今回は、そのシズイ、コウキヤガラについてお話をしたいと思います。

《 シズイ 》

カヤツリグサ科の多年生雑草であり、主に塊茎で増えます。種子でも繁殖しますが除草剤を使用している水田では、種子からの発生はあまり問題とはならず、塊茎からの発生が問題となります。塊茎から発生したものは2～3葉期ではイヌホタルイに類似した形態であり、葉および茎の断面が三稜形で、成長すると高さ50～80cmで直立します。葉数が数枚になった頃から地下茎によって増殖し株数を増加します。塊茎は地下茎に連なって数段に形成され、1株から15～30個と、塊茎を形成するなかでは特に多い雑草です。



水稻に対する雑草害は、発生量が多く草丈が高いことから、栄養競合および光競合の両方であり、収量への影響が大きいです。防除については、シズイに効果のある初・中期剤を草丈3cmまでに処理することで生育を抑制し、後期にベンタゾンを含むバサグラン液剤などの茎葉処理剤を草丈30cmまでに使用する体系処理が効果的です。本種に対してはMCPB、クミルロン、ペントキサゾン、ベンゾビシクロン、SU剤などの成分が有効とされています。

《 コウキヤガラ 》

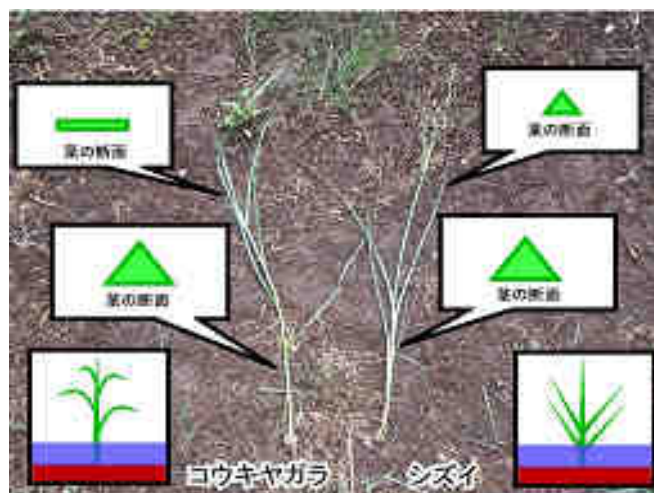


カヤツリグサ科の多年生雑草であり、種子生産もしますが、水田での主な発生源は塊茎及び株基部からです。茎の断面が三稜形であり、葉は平たいのが特徴です。高さ40～100cmで直立します。塊茎および株基部から出芽

後、舌状の葉を数枚出し、つづいて葉鞘と葉身をもつ本葉を出します。生育が進み本葉3～4葉期になると株基部から根茎を出し先端に一次分株を形成します。そして、一次分株から二次分株と増殖していきます。オモダカ、

シズイの塊茎の寿命が1～2年と短いのに比べて、コウキヤガラの塊茎の寿命は3～10年と長いです。水稻に対する雑草害は、初期生育が水稻より旺盛であり、草丈が高いことから、栄養競合および光競合の両方で、収量への影響が大きいです。防除については、コウキヤガラに効果のあるSUを含む初・中期剤が有効であり、後期にベンタゾンを含むバサグラン液剤などの茎葉処理剤を草丈20～40cmで処理する体系が効果的とされています。道外の試験結果ですが、ピラクロニルもコウキヤガラに対して高い除草効果を示すことが明らかになっ

(シズイとコウキヤガラの見分け方)



ています。
しっかりと雑草を防除するには、その雑草の事を知ることが大事だと思います。(新米次郎)

【参考文献】

水田雑草の生態とその防除 —水稻作の雑草と除草剤解説—

カヤツリグサ科 入門図鑑

北海道の耕地雑草 見分け方と防除法

(2011年9月)